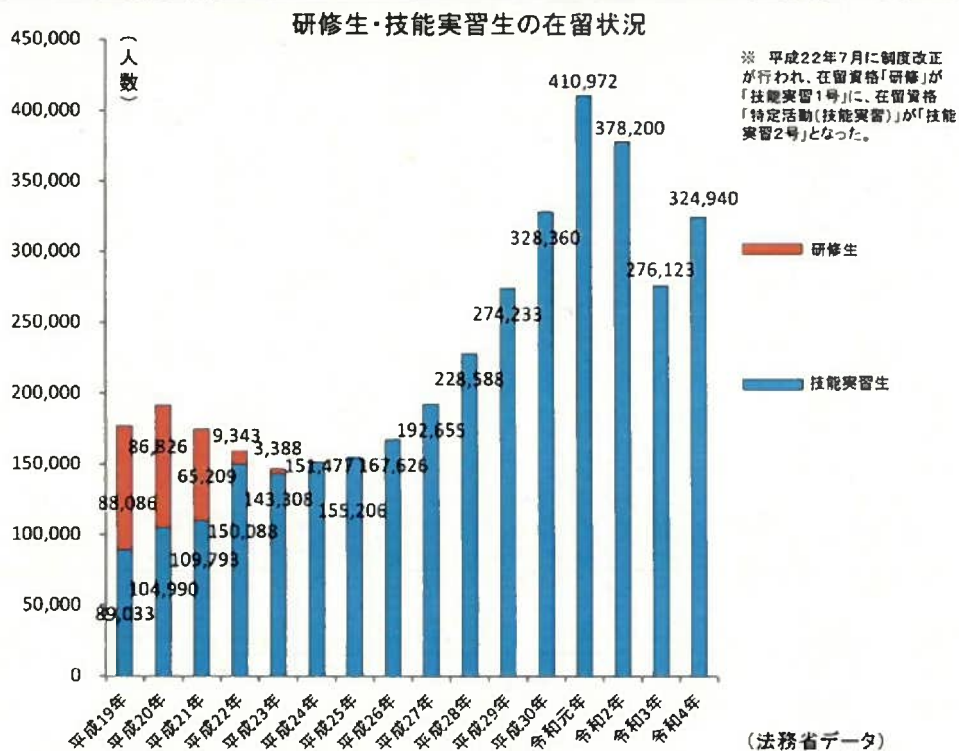
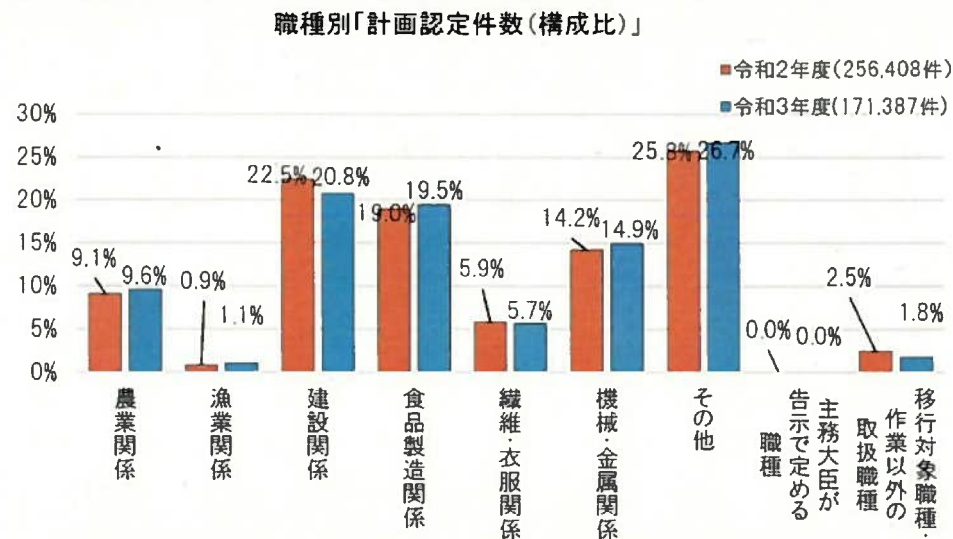


技能実習制度の現状

1 令和4年末の技能実習生の数は、324,940人



3 職種別では、①建設関係 ②食品製造関係 ③機械・金属関係が多い。



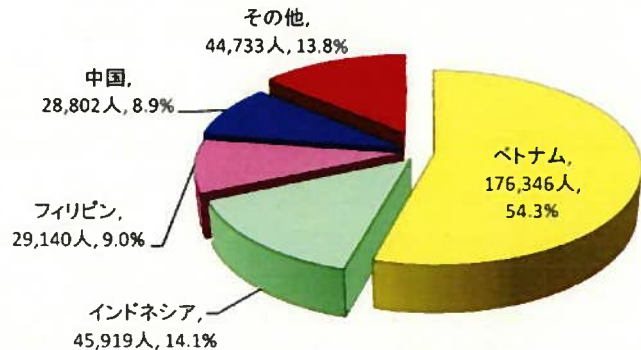
※「その他」には、家具製作、印刷、製本、プラスチック成形、強化プラスチック成形、塗装、溶接、工業包装、紙器・段ボール箱製造、陶磁器工業製品製造、自動車整備、ビルクリーニング、介護、リネンサプライ、コンクリート製品製造、宿泊、RPF製造、鉄道施設保守整備、ゴム製品製造の職種が含まれる。

※本件数は当該年度に技能実習計画の認定を受けた件数であり、未入国の者等を含むため、在留者数とは一致しない。

(令和3年度「外国人技能実習機構統計」)

2 受入人数の多い国は、①ベトナム ②インドネシア ③フィリピン

令和4年末 在留資格「技能実習」総在留外国人国籍別構成比(%)



4 団体監理型の受入れが98.3%

令和4年末「技能実習」に係る受入形態別総在留者数



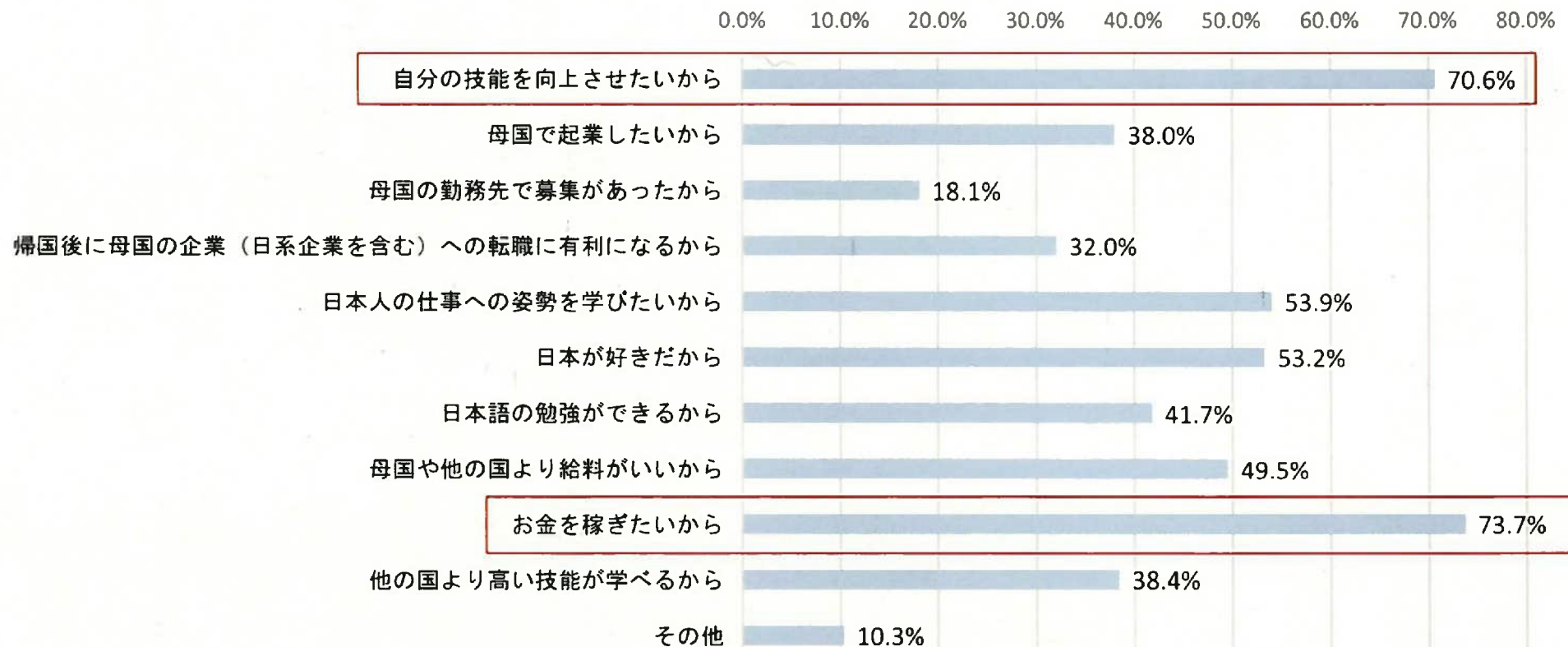
(技能実習生向けアンケート)

(1) 日本での実習生活について

Q1 あなたが日本で技能実習を行いたいと思った理由について、当てはまるものを全て選んで下さい。

技能実習生が技能実習を行いたいと思った理由は、「お金を稼ぎたいから」(73.7%)が最も多く、次いで「自分の技能を向上させたいから」(70.6%)、「日本人の仕事への姿勢を学びたいから」(53.9%)であった。

n=1,811(複数回答)

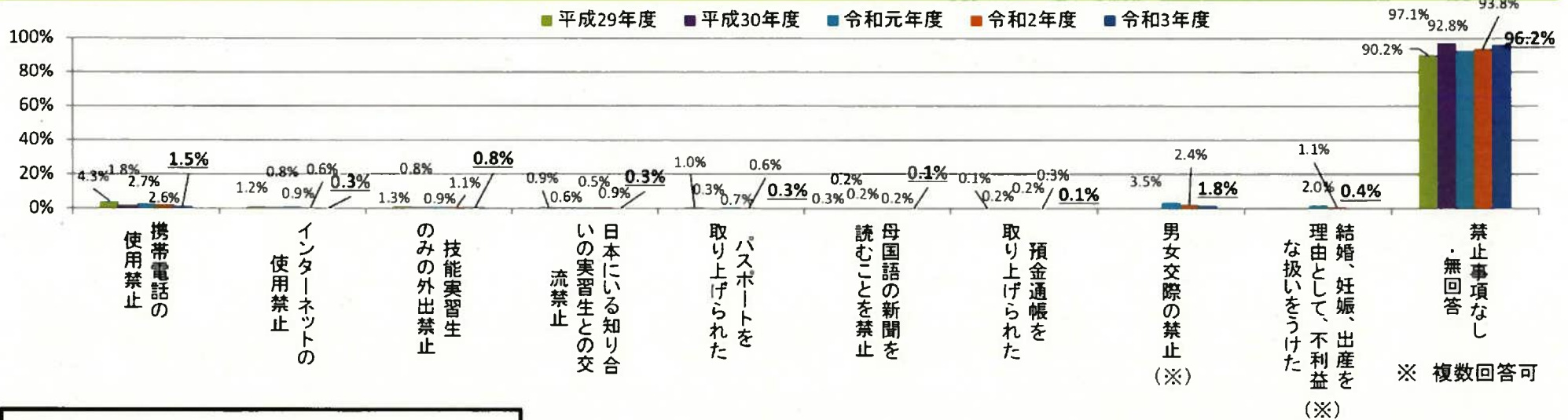


実習期間(在留)中の問題の有無

実習期間(在留)中の禁止事項

※「男女交際の禁止」及び「結婚、妊娠、出産を理由として不利益な扱いを受けた」は令和元年度から選択肢に追加。
 ※令和3年度は「帰国予定であった元実習生」を含む。

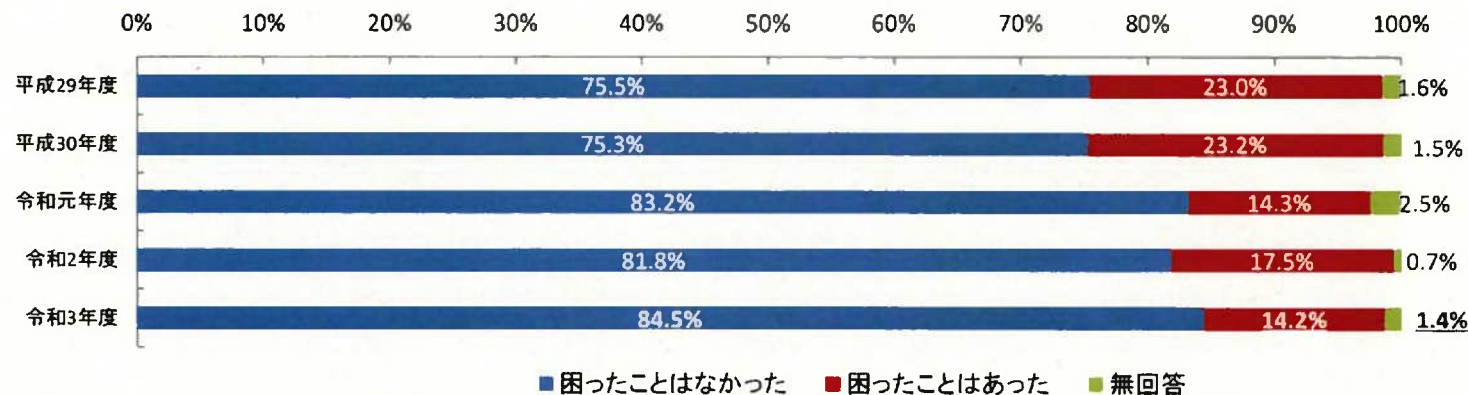
「禁止事項がなかった」との回答(無回答を含む)は96.2%となっている。禁止事項の内容は、「男女交際の禁止」が1.8%で最も多く、「携帯電話の使用禁止」が1.5%と続く。



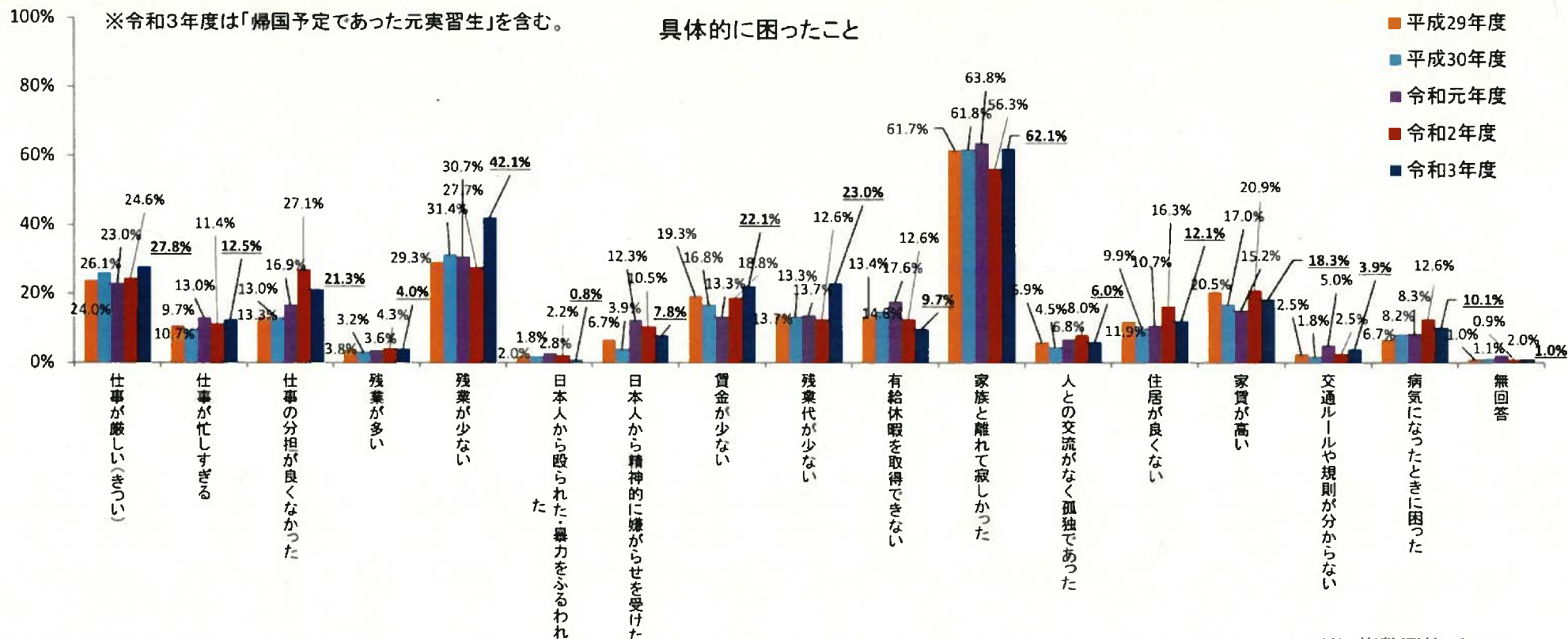
実習期間(在留)中の困ったこと

※令和3年度は「帰国予定であった元実習生」を含む。

在留中にコミュニケーションの問題以外で困ったことがあったかどうかを尋ねたところ、「困ったことはなかった」と回答した人は84.5%となっている。「困ったことはあった」と回答した人の具体的な内容は、「家族と離れて寂しかった」が62.1%で最も多い。



実習期間(在留)中の問題



※ 複数回答可

自由記述欄(その他の意見)

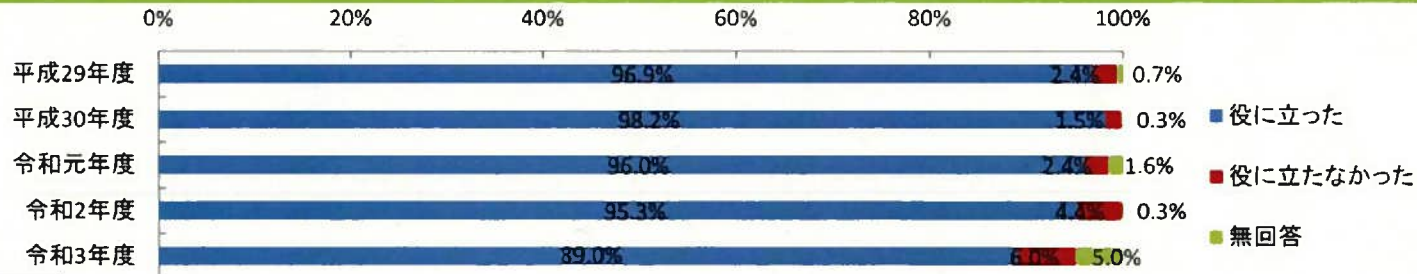
有効回答をした7,930人のうち、949人から意見があった。上記以外の意見の例は以下のとおり。

- ・会社が実習生のプライベートに関与するのは、やり過ぎだと感じた。
- ・コロナ禍の影響で、外出ができずストレス発散の機会がなかった。
- ・源泉徴収と年金の手続き(処理)が難しいので個別に説明やサポートをして欲しかった。
- ・実習生というだけで、今でも軽蔑する日本人がいることがとても残念。
- ・日本で生活するには、税金などで引かれる金額が高いと感じた。
- ・食事などについては、宗教に配慮したことが分かるように表示して提供して欲しかった。
- ・会社と寮までの距離が遠いなど、公共交通機関が整備されていない地域だったので、生活するのが不便であった。

技能実習の効果

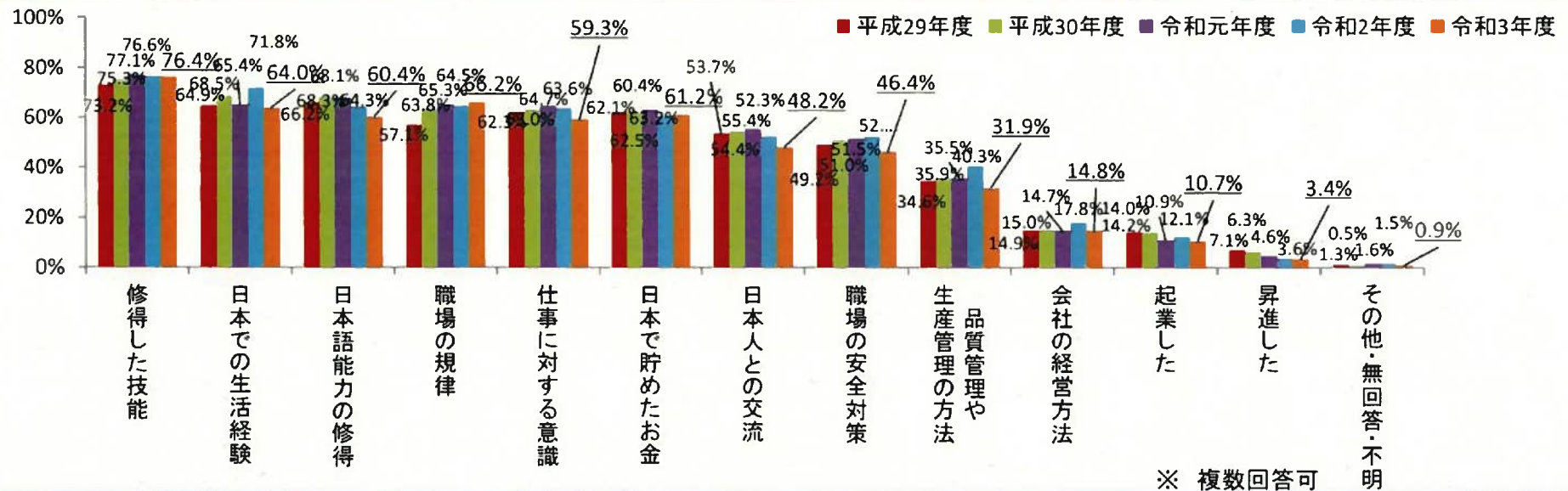
技能実習の効果

技能実習期間を通じて学んだことが「帰国後、役に立った」と回答した人は89.0%となっている。



役に立った内容

役に立った具体的な内容は、「修得した技能」が76.4%と最も多く、「職場の規律」が66.2%、「日本での生活経験」が64.0%と続く。



帰国後技能実習生のフォローアップ・アフターケア等に関する取組好事例②

令和3年度 調査結果

外国人技能実習機構

広島県 T 実習実施者

【実習実施者概要】

実習生の国籍：マレーシア

実習生の職種：機械加工

【ポイント】 ✓実習実施者が送出国での取引拡大に向けて、自ら元実習生のフォローアップを実施

実習実施者の取引拡大に繋がる帰国後のフォローアップ

実習実施者は、マレーシアの提携企業から従業員を受け入れ、提携交流の促進や取引拡大への寄与などを目的として技能実習を行っている。

元実習生は、約5年間の機械加工（フライス盤）実習を修了し帰国した後、送り元企業に管理職として復職した。

実習実施者は元実習生の帰国後も、オンラインで技能的な質問に対応する体制を作っており、またオンライン会議ソフトによる定期ミーティングを月1回実施することで、フォローアップや情報共有を行っている。

実習実施者は、このような継続的なサポートにより提携企業の技術レベルの向上をはかり、より難易度の高い業務を依頼できるようにすることで、現地での取引拡大を目指している。

日本で学んだ知識や技能を現地スタッフに普及

元実習生は、日本での実習中に学んだ職場での時間厳守、5S（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）に基づいた整理整頓などについて、管理職として現地スタッフに指導している。また、自身が日本で習得した機械加工技術をスタッフも習得できるよう指導し、スタッフ自身で機械加工を行えるようになるまで教育するなど、知識や技能を現地での普及に貢献している。

時間厳守・
5Sが大切



制御盤操作をしている元実習生